

四万十町窪川地域中心街地活性化協議会設立準備会・第1回協議会議事録

- 1 開催日時 令和元年10月17日 10:00~11:30
 - 2 開催場所 四万十町役場東庁舎1階多目的大ホール
 - 3 出席委員及び欠席委員

| | |
|---------------------------|--------|
| (出席) 四万十町商工会会長 | 武田 秀義 |
| 社会福祉法人しまんと町社会福祉協議会会長 | 八木 雅昭 |
| 一般社団法人四万十町観光協会会長 | 池田 十三生 |
| 株式会社高知銀行窪川支店長 | 泉 茂 |
| 岩本寺住職 | 窪 博正 |
| 四万十町副町長 | 森 武士 |
| 高知県産業振興推進部地域産業振興監(高幡地域担当) | 森田 健嗣 |
| 高知県商工労働部経営支援課長 | 山本 倫嗣 |
| 窪川街分区長会長 | 吉田 正英 |
| (欠席) 窪川中学校PTA会長 | 佐竹 孝太 |
| 株式会社四万十交通代表取締役 | 吉岡 真佐人 |
| 有限会社山岡商店代表取締役 | 山岡 義正 |
 - 4 事務局等出席者

高知県 経営支援課 チーフ(商業流通担当) 塚本 裕司、主査 鍋島 由子
高幡地域本部 地域支援企画員(総括) 橋田 広加
四万十町商工会 事務局長 宮地 正人、事務局 森田 尊之
四万十町 町長 中尾 博憲
企画課 課長 山本 康雄、まちづくり推進室 室長 大元 学、
人材育成推進センター 主幹 横山 光一、地域おこし協力隊 岸 豊、
にぎわい創出課 課長 植村 有三、副課長 小笹 義博、総括主幹 竹澤和子
- (設立準備会)
- 1 開会 司会による開会宣言
 - 2 あいさつ 四万十町長 中尾 博憲
高知県産業振興推進部 地域産業振興監 森田 健嗣
 - 3 委員紹介 出席者による自己紹介と事務局による欠席者紹介
 - 4 事務局等紹介 司会による県関係者及び事務局の紹介
 - 5 議事
 - (1) 中心市街地の活性化について
 - (2) 四万十町中心市街地活性化協議会設置要綱について
 - (3) 会長・副会長の選任

【概要】

会議の開催にあたり、四万十町長中尾博憲、高知県産業振興推進部地域産業振興監森田健嗣氏から挨拶があり、委員の紹介、事務局等の紹介を行い議事に入った。

議題（１）及び（２）に関し、協議会設立の目的、協議会とワーキンググループの役割、中心市街地の現状、協議会設置要綱（案）の内容について資料１、２及び参考資料を用いて事務局から説明を行い、中心市街地活性化協議会の設立及び設置要綱の制定について採決が行われ、全会一致で了承された。

議題（３）会長・副会長の選任について諮ったところ、全会一致で、会長に四万十町商工会会長武田秀義氏、副会長に社会福祉法人しまんと町社会福祉協議会会長八木雅昭氏が選任された。

会長・副会長の選任をもって設立準備会は終了し、引き続き、第１回四万十町中心市街地活性化協議会の開催に移行。

※ 町長は、設立準備会後退席 退席にあたりひとこと

人口減少の話があったが、キーポイントとなるのは女性。四万十町でも 20~30 代の女性が 1 昨年は 1300 人であったが、20 年後には 300 人になるとの推計。きわめて危機的な状況。女性がこの街に残れる街づくり。商工業は女性の視点も大事。女性が活躍できる、女性が就業しやすい街づくりの視点も取り入れていただきたい。

（第 1 回協議会）

- 1 開会 会長による開会宣言
- 2 議事
 - （１） 中心市街地活性化計画策定の基本的な考え方について
 - （２） スケジュール・進め方について
- 3 その他 中心市街地についての意見交換

【概要】

設置規程第 6 条の規定により会長が議長を務め、委員 12 名中 9 名の出席で会議が成立することを告げ、開会の宣言を行った。

議題 1 及び議題 2 について、事務局から計画策定の基本的な考え方、対象エリア、今後のスケジュール、ワーキンググループ参加者の想定等について資料 2、3 を用いて説明を行い、原案どおり承認された。

委員からワーキンググループのメンバーについて、観光協会の職員が協会退職後も個人として参加することは可能かとの質問があり、事務局から意欲のある方を中心に話し合っていく会であるため退職後も参加可能であることを説明。

議事終了後、その他の事項として各委員に中心市街地に対する思いや計画への意見をいただき会議を終了した。

【委員の意見概要】

(委員) 男女共同参画、多様な参加が求められる。メンバーへの配慮が必要。協議会委員(規定の)20人以内とある。女性委員を入れる意向はないのか。

(事務局) 次回協議会までに女性委員に加わっていただくことを検討したい。

(委員) 店舗に目がいきがちだが、「清流の鮎」の視点も取り入れてはどうか。吉見川に多くの鮎が遡上している。残念ながら河川敷までは行けるが川まで下りる道がない。

(委員) まさに地域資源を生かす話。ワーキンググループで話せば、取り組みとしてやりたい人も出てくるのでは。

(委員) 本町商店街では吉見川の草刈りや飛び石で渡ることができるように整備もしていた。そこを活かせられれば、景観も良くなる。参加者が高齢化しているので、協力できるようになればいい。商店街で言えば今月飲食店が1店舗と食のチャレンジショップがオープンした。「食の町」というところは四万十町の良さ。よそから見ると飲食店が豊富。中にいると大したことがないと思うが、外からの視点も大事。

(委員) 計画策定までのスケジュールがタイト。どんどん意見を出していかないと間に合わない。皆さんからもご提案を。ワーキンググループのアドバイザーは全部に参加するのか。

→(事務局) すべてに参加を依頼する予定。

(委員) 「四万十町といえば？」を行員に聞いてきた。仁井田米、四万十ポークなど主に食べ物があがる。観光についてはない。四万十川は、下流域の四万十市のイメージが強い印象。観光が弱い。岩本寺、ホビー館等でアンケートを取って、何を目的に来ているのか、何が強みで何が弱みか分析してみてもは。強みを補強するのか、弱みを補完するのか、そこをワーキンググループで話してみてもは。

(委員) 皆が何を必要としているのか、それをすり合わせて発信する。皆が知っている情報を見える化していく。中にいる人には当たり前でも外の人知らないことを見える化して選択肢に。そういうまちづくり、好きになってもらえるまちづくりをしたい。

(委員) 以前、味覚が小学校横にあったころ、春に桜並木を見て、京都の哲学の道と変わらないと思った。歩いてもらうしくみを。駐車場、トイレの整備も必要か。鮎も泳ぐ川、桜を見ながらの散策ルートをつくっては。そういうことも活性化につながるのではないか。意義ある会にしてほしい。

(委員) まち歩きを案内する「四万十あちこちたんね隊」がある。商店街のスイーツや揚げ物のなどの店で食べ歩きが好評。最近、岩本寺の前の果物屋で野菜のアイスも人気。

(委員) 街を活性化していくには、どれだけ知っているかも大事。委員やワーキンググループのメンバーも1時間くらい町を歩いて考えてみては。

ハードだけじゃなく、声かけをしてくれるやさしい街。目に見えるものだけでなく、人の優しさを出してまちづくりをする視点も。

(委員) 文化的複合施設の計画案も年末にできる。情報の共有は大事。谷干城常設館等そういったことも検討に加えて。

(委員) J Rの観光列車が運行する。四万十町も頑張らなければ。例えば窪川でカツオを食べたい人もいる。案内できることが必要。情報の共有を。町中に歴史をきざむ看板も大事。遍路道を整備して、お遍路に限らずトレッキングコースにすることも考えられる。

(委員) 観光の取り組みが知られていない。そこを強めていけば効果がある。四万十町はどちらかといえば通過点になっている。あぐり、ゆういんぐも休憩の利用が多い。そこから街中にどう呼び込むか、いろいろな資源をアクションプランに生かしていただきたい。

(委員) いろいろな話が出てきている。情報はあるが知っていないこと、ワーキングの中でつないでいけば。高幡地区の地域支援企画員のグループ研修会で四万十町のまち歩きを経験。確かに飲食店は多い印象だった。ガイドをしてもらうと時間を忘れて楽しい。歴史文化もわかる。ワーキングでは、いろいろな話が出て形になっていけばと思う。

(委員) まち歩きといえば、サンシャインの裏手の堤防沿いは、北琴平に紺色のアーチの橋がある。桜が咲いたら雰囲気の良いところ。堤防がガタガタでもったいない。駅ナカに食堂ができ、列車を利用したであろうリュックを背負った若い人や外国の人、いろいろな人がいる。そういう人たちに街中を歩いてもらえる仕組みを。来年4月から観光列車が運行する。列車を降りて駅の西側に引き込む。来年に向けての仕掛けづくりも必要か。ワークショップへの位置づけも必要。お遍路さんのほとんどは、昼食はあぐりかゆういんぐ、そうでなければ黒潮町に行って食べる。商店街に案内して昼食を取って参する。そういう提案もしたい。ある協力隊の奥様と話したが、県外出身で大阪から四万十町に来たそう。意欲のある素敵な女性。ワーキンググループのメンバーに声掛けしては。